



緑川ダム水源地域ビジョン

人と森とろみへ湖へのつながりによる
「緑川水源郷」の創造と経営

国土交通省九州地方整備局
緑川ダム管理所

〒861-4703 熊本県下益城郡美里町畝野3456
TEL.0964-48-0216 FAX.0964-48-0752
ホームページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/midori>

携帯電話サイトのご案内



目次

水源地域ビジョンってなに？	P 2
緑川ダムでは？	P 2
ビジョンのテーマ	P 3
ビジョンメニュー詳細	P 4
1 ダム湖面・湖岸の利用促進	P 4
2 水源地域ネットワークの形	P 5
3 水環境の保全・改善	P 6
4 森・農地環境の保全・復元	P 6
緑川ダム水源地域ビジョンのこれまでの経緯	P 7
これまでの検討・推進状況	P 8
水環境保全部会	P 8
利活用検討部会	P 9
これからの取り組み	P10

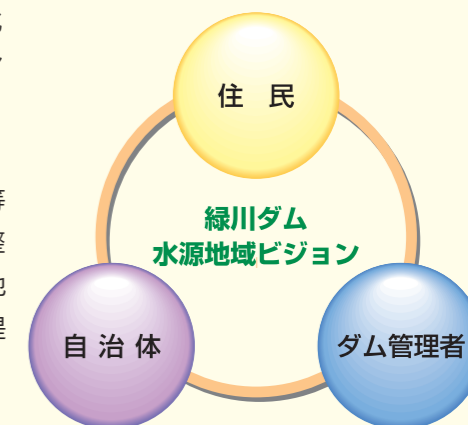


◆水源地域ビジョンってなに？

国土交通省と地域の方々为一体となって水源地域の振興を図るための施策の1つです。

目標：ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図るとともに、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることで。

内容：ダム湖周辺の豊かな水辺と緑を活かした公園整備等地域の特色とダムを活かした連携によるハード整備・ソフト対策を行います。また、水を軸にした地域間交流、地場産業の振興、豊かな自然・文化の提供等も行います。



◆緑川ダムでは？

平成15年に地域の人や行政や学識者とビジョンを決めて、今は具体的化に向けて動き出しています。

「緑川ダム水源地域ビジョン策定委員会」では、学識者、地域流域 NPO 代表、水源地域住民代表、水源地域自治体、関係機関などを委員として平成14年12月から平成15年7月にかけて委員会を4回開催し、「緑川ダム水源地域ビジョン」を策定しました。

今後は、緑川ダム水源地域ビジョン推進協議会にはかり、水源地域住民・水源地域自治体・関係機関・ダム管理者がそれぞれ役割分担を行い、基本方針に基づく具体的な施策を実施していきます。

交通アクセス

車を利用する場合
 熊本市より約43km 〇約1時間 間は高速利用
 御船ICより約23km 〇約30分
 松橋ICより約23km 〇約30分

JR(特急)とバスを利用する場合
 熊本～緑川ダム 〇バス：約1時間
 博多～熊本 〇JR：約1時間25分

新幹線とバスを利用する場合
 熊本～緑川ダム 〇バス：約1時間
 新八代～熊本 〇JR：約20分
 鹿児島中央～新八代 〇新幹線：約42分



人と森とうみ(湖)のつながりによる『緑川水源郷』の創造と経営

緑川ダム水源地域ビジョンでは、水源地域の将来像として「人と森とうみ(湖)のつながりによる『緑川水源郷』の創造と経営」を目指し、豊かな水源地域づくりを推進するものです。緑川ダム水源地域の活性化に対して、地域が現在抱える課題を踏まえ、ビジョンの基本理念の実現に向けた4つの基本方針を定めました。

緑川ダム水源地域ビジョンの基本理念

人と森とうみ(湖)のつながりによる『緑川水源郷』の創造と経営

資源の共有と活用 環境の保全・改善

交流・連携の育成

基本理念実現のための4つの基本方針

1 ダム湖面・湖岸の利用促進

- 水面利用の常時開放
- 湖岸整備
- 水面利用支援・促進など

3 水環境の保全・改善

- ダム湖の水質改善
- 流域各地での水質改善
- 水質改善についての啓発・PR

2 水源地域ネットワークの形

- ビジターセンター設置
- 回遊・周遊ルートの整備・活用
- 緑川水源郷倶楽部の創設など

4 森・農地環境の保全・復元

- 林業の健全化
- 中下流域の人的交流・連携による森・農地保全
- 森・農地環境の保全・復元についての啓発・PRなど

1 ダム湖面・湖岸の利用促進

水面利用の常時開放

カヌー及び水上バイク（イベント限定）体験等の開催など、4月～10月頃を中心に、多くの一般利用者が楽しんでおります。

湖岸整備

「ダム湖周辺ルート整備」では、旧道（エコライン）を活用して、湖畔を散策できる周遊ルートの整備を行います。

- ・泳げる内湖の整備
- ・フローティング桟橋の設置
- ・水に潜る道の設置
- ・安全なつり場の設置
- ・サインの設置



2 水源地域ネットワークの形

ビジターセンター設置など

- ビジターセンター（みどりっ湖情報室）の設置
- サブビジターセンター設置
 - ・川の駅・石橋の駅の整備
 - ・既存施設（道の駅「虹の通潤館」、道の駅「清和文楽邑」）をサブビジターセンターに整備
- 情報発信地設置
 - ・陶芸の里整備
 - ・既存施設（美里ガーデンプレイス、柏川キャンプ場、猿ヶ城キャンプ場、鮎の瀬交流館、青葉の瀬、清流館、井無田高原キャンプ場、清和高原天文台）を情報発信施設に整備

緑川水源郷倶楽部の創設など

- ・運営団体（緑川水源郷倶楽部）の設置
- ・ビジターセンター（みどりっ湖情報室）の運営
- ・交流参加者の受け入れ体制の確立
- ・グリーンツーリズムの充実と展開
- ・森林ボランティアシステムの開発
- ・水質問題の学習プログラムの開発
- ・交流・連携のための学舎の設置
- ・ガイド・インストラクターの育成
- ・ITを活用した情報の収集・発信
- ・メディアや公的機関を利用した情報の広域発信
- ・流域産品交流の促進、地場産品の郷土料理活用
- ・リバーツーリズムへの新規メニュー提案
- ・エコツーリズムの充実と展開
- ・冬季体験・学習プログラムの開発
- ・流域経営研究所の設置
- ・水源塾の創設
- ・水源地域の達人の発掘と活用
- ・産品の高付加価値化と特産品の開発



3 水環境の保全・改善

ダム湖の水質改善

- ・植物を利用した水質浄化
- ・選択取水設備の活用（濁水対策）
- ・曝気施設整備による水質浄化

流域各地での水質改善

- ・農薬・肥料の適正化
- ・合併浄化槽設置の促進
- ・休耕田を水質浄化施設として利用

水質改善についての啓発・PR

- ・サインの設置
- ・水質問題の学習プログラムの開発
- ・一斉清掃の推進

4 森・農地環境の保全・復元

多面的機能をもつ森林（もり）づくり

- ・間伐材や粗朶（ソダ）の利用
- ・水源涵養機能をもつ森林づくり

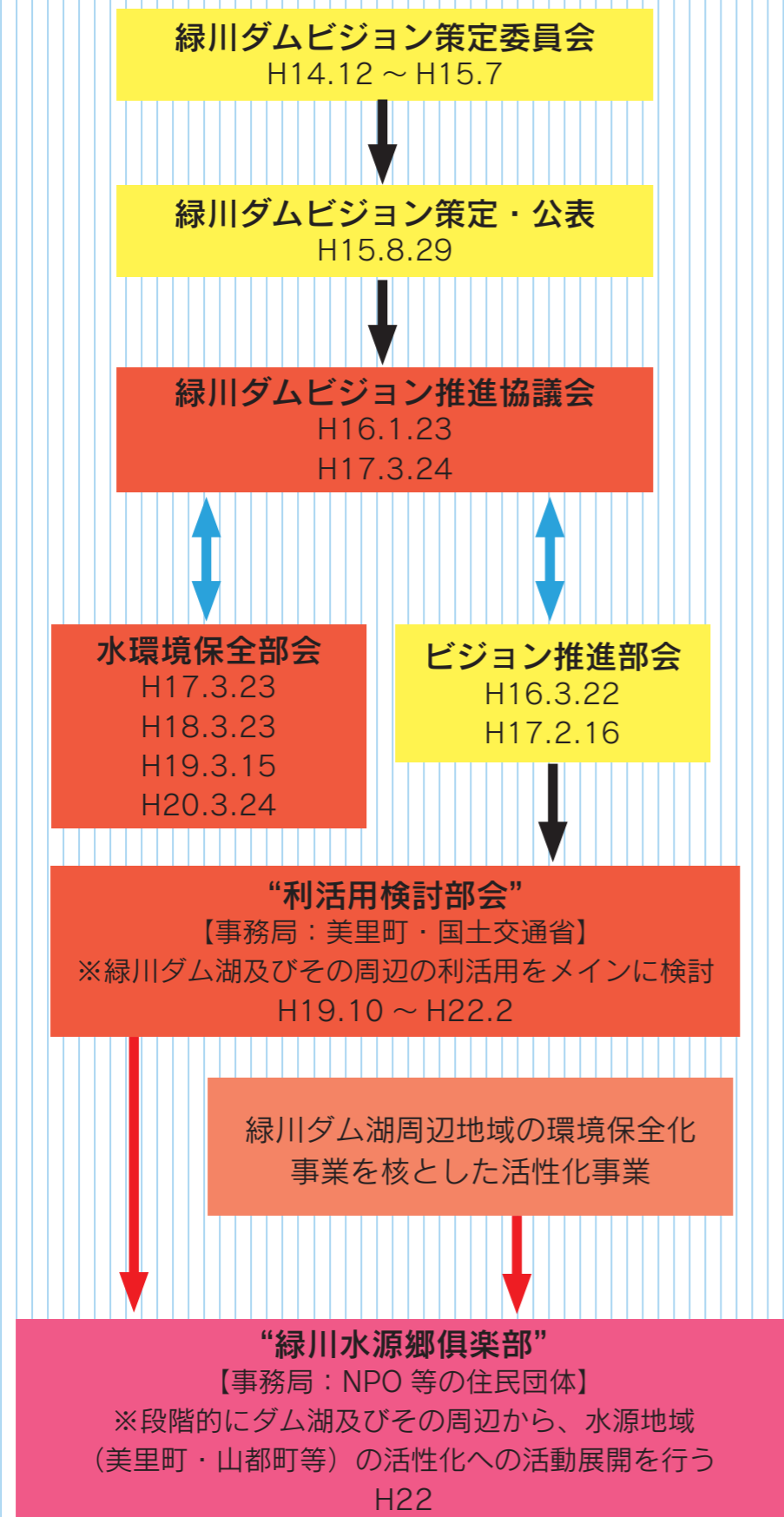
中下流域の人的交流・連携による森・農地保全

- ・森林ボランティアシステムの開発
- ・森と農地のオーナー・里親制度の設置

森・農地環境の保全・復元についての啓発・PR など

- ・サインの設置
- ・グリーン・エコツーリズムの充実と展開
- ・一斉清掃の推進

◆緑川ダム水源地域ビジョンのこれまでの経緯



◆これまでの検討・推進状況

水環境保全部会

選択取水設備

洪水時、ダム湖には濁った水が流れ込みます。緑川ダムでは、先にきれいになる上層部の水を選択し、できる限り澄んだ水の放流を行っています。このように、下流の川と性質（水温や濁度）に近い水を放流することで下流の利水や河川環境に影響を与えることを防ぎます。

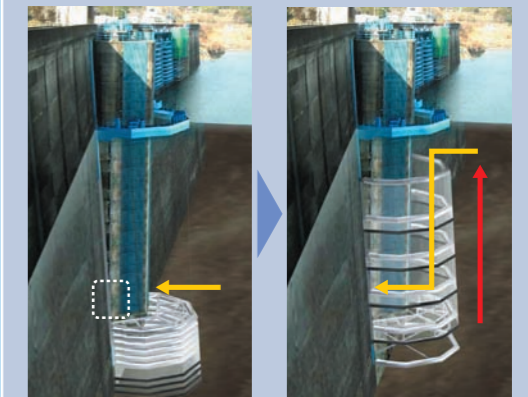
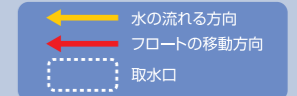
選択取水の仕組み

平常時（非選択取水時:写真左）

設備はすべて格納され、ダム湖の水はそのまま取水口を通り放水されます。

選択取水時（写真右）

遮水膜のついた可動のフロート（浮き）が、昇降装置により引き上げられ、上層部の水を選択し取り入れることが可能となります。



浅層曝気循環装置



浅層曝気循環装置とは、推進の浅い層（約20m）を循環させることにより、

- ダムの上流から流れてくる水が循環層の下を流れることで、栄養塩類（窒素やリン）を光の少ない所へ押し込む。
- 光合成をするために水面に集積しやすい植物プランクトンを光の少ない所に拡散させる。などによりアオコ・淡水赤潮の発生を抑制します。

緑川ダム流域の水質調査

緑川へ流れ込む川について、水質調査を行い、どの川がどのくらい汚れていて、何が原因なのかを調べました。

【調査方法】

- ①調査地点に行って、水を採水して小さなポリビンに入れて持ち帰ります。
- ②持ち帰った水をバックテストで水質を調べます。バックテストとは試薬が入っている小さなチューブに水を吸い込んで反応した色によって水質がわかる簡単な方法です。

利活用検討部会



緑川ダム水源地域ビジョンの実行のため、『緑川ダム利活用検討部会』を発足しました。

これは、平成15年度に策定された「緑川ダム水源地域ビジョン」について、地域住民の代表者や周辺施設の管理者、学校関係者などで組織し、ダム周辺の利活用について、官民が一体となり、ワークショップ形式にて進めていきました。

日頃から親しんで頂いている緑川ダムをあらゆる角度から現状と課題を話し合い、既存施設の有効利用や維持管理を見据えた検討を行ってまいりました。

また、なお一層ダムのことを理解して頂くために、ダム管理者の通常・出水時の業務など、日頃から緑川ダム管理所が行っていることについて、平成19年7月6日の出水を例に取って、情報提供を行いました。

みどりっ湖情報室



一人でも多くの人に緑川ダムの果たす役割や未来への可能性をご理解いただくために、さまざまなメディアや手法を通じて情報の発信やコミュニケーションの広がり積極的に取り組んでいます。水辺の生物や周辺の観光・レジャーまでを含めた多彩な情報を盛り込み、現在もなおダムと地域の方々との橋渡し役となっています。

◆これからの取り組み

「緑川水源郷倶楽部」について

【基本方針】

水源地域（美里町・山都町等）に多くの人々が訪れてくれるように魅力のある取り組みを行っていく。

【具体的な活動及び整備案】

- (1) 緑川ダム周辺の集客率をアップさせるため、レジャー面での充実を図る。
- (2) 特に冬場は閑散としているため、ワカサギ釣りのスポット整備（平成22年度はダム資料館の下に1箇所設ける予定）を行う。
- (3) 在来の動植物を保全する取り組みを行う。
- (4) さらなる湖面利用の促進を図っていく。
- (5) 緑川ダムフェスタの企画・運営を行う。但し、共催・協賛という形で、従来の各関係機関及び団体等にも支援を呼びかける。
- (6) ダム見学会の追加コースとして、体験型プログラムの緑川ダムバージョンを検討し、「ダム見学会」のメニューに組込む。
- (7) 竹林再生・土壌改良等の実証実験や、景観障害になっている富栄養化対策の検討・実験、特産品開発。

※当面は美里町を中心とした活動を行い、軌道に乗ってきた段階で水源地域内の他自治体への展開を図っていく。

※各種団体や地元商工会とのネットワークを構築し、連携した取り組みも展開していく。